

(西暦) 2020 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

がん患者に対する生活と関連付けたアピアランスケア自己評価表の開発
・Nominal Group Technique を用いた内容的妥当性の検討・

学位の種類: 修士 (作業療法学)

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号: 19896703

氏名: 川原 宇央

(指導教員名: 石橋 裕)

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

本研究は、がん患者に対する生活と関連づけたアピアランスケア自己評価表の内容的妥当性の検討を目的に、Nominal Group Technique(NGT)を用いて 2 段階の研究を行った。

近年のがん治療の発展は目覚ましく、社会とつながりを持ちながら治療を行うがんサバイバーは増加している。患者の多くは副作用の中でも特に外見変化に苦痛を感じており、外見変化の専門知識と対応技術は医療者に求められている。外見変化に対する支援はアピアランスケアとして近年注目されているが、現状は医学的な支援にとどまり、生活と結び付けて支援することが課題となっている。そこで本評価表は、がん患者の外見変化と関連した生活上の問題を焦点化し、生活と結びつけた支援のきっかけとなることが期待される。

本研究は Consensus-based Standards for selection of health Measurement Instrument(COSMIN)に準拠して 2 段階に分けて行った。第 1 段階では評価表の構成概念と項目プールを文献レビュー、アピアランスケアガイドライン、既存の評価尺度を参考に作成した。その結果、1:治療マネジメント、2:整容スキル、3:新しい生活様式への適応という 3 つの構成概念と 28 項目の項目案が作成された。第 2 段階ではがん患者に支援をこなっている医療福祉専門職を対象に、NGT を用いて項目の内容的妥当性を検討した。NGT 参加者には、各項目を 5 段階のリッカート尺度で NGT 前後に採点してもらった。採用基準は“わかりやすい表現か”“構成概念と一致しているか”とした。それらの採点結果を基に中央値が 5.0、四分位範囲が 1.0 以下となった項目を最終的に研究者 3 名で議論し、内容的妥当性が検証された項目として試作版評価表に採択した。

NGT 前の結果は 28 項目中 8 項目が採点基準をみたした。NGT では各項目について議論され、追加項目が 6 項目、修正項目が 15 項目となった。NGT 後の採点結果では 34 項目中 30 項目が基準を満たし、4 項目が基準を満たさなかった。NGT 後、採点結果を踏まえ、研究者 3 名で議論し、基準を満たさなかった 4 項目を除外し、基準を満たした 30 項目を試作版として採択した。

本研究は COSMIN に基づき実施したが、段階 1 では 5 項目中全て、段階 2 では 5 項目中全てが very good を満たしたため、作成した質問紙は高い基準で内容的妥当性を確認できたと考えられた。また、試作版評価表には 3 つの構成概念に基づき、治療を生活の一部として対応する項目、身だしなみを整えるために専門的な技術を用いる項目、外見変化に対応したうえでの生活の実施状況に関する項目が含まれた。これらは、社会とつながりを持っているがんサバイバーの医療者へのニーズに即した切実性の高い項目であると考えられた。今後も COSMIN に準拠し、構成概念妥当性、構造的妥当性などその他の尺度特性について検討し、最終的にアピアランスケア自己評価表となる質問項目を決定する必要があると考えられる。